

牧野組合等との協働により、 草原再生事業に取り組んで

POINT 01

今年度、3 牧野で計画づくり始まる

牧野組合の方々が自分たちの牧野の野草地管理を進めていく際の方針となる「野草地環境保全計画」。今年度は、阿蘇市の町古閑牧野と新宮牧野、高森町の村山牧野の3 牧野で取り組んでいます。

計画づくりにあたっては、牧野組合員自らが現地調査や関係者へのヒアリングを行い、植物の生育状況、牧野の利用や管理の履歴などを調査します。これにより、自分たちの牧野の現状や草原植生の豊かさなどを再確認し、今後の野草地管理の活動につなげます。



調査場所の打ち合わせ（町古閑牧野）



調査風景（村山牧野）



調査風景（新宮牧野）

- 環境省では、平成 20 年度の「野草地環境保全計画」作成を希望する牧野を募集しています。
- 詳細については、阿蘇自然環境事務所までお問い合わせください。

POINT 02

採草・野焼きのための作業道を整備（木落牧野）

平成 17 年度に計画づくりを行った木落牧野（阿蘇市）では、アクセスが不便なために利用しにくかった野草地の採草利用促進や、野焼きの際の作業道整備などが計画されました。その計画に基づき、平成 18 年度環境省事業により牧野内の作業道整備（幅員 3m、延長 500m）を行いました。採草地へのアクセスがしやすくなったことで野草採草の面積が拡大したのに加



え、野焼きの際の安全性確保にも役立っていると、組合員から喜ばれています。

砂利敷きした上に土と牧野内で伐採した木を活用したチップで舗装。

Interview

草原を守る人々

本田逸雄氏

村山牧野組合組合長
阿蘇郡高森町高森在住
53 歳



毎年山菜が採れるような豊かな環境を守っていききたい

村山牧野は清栄山やらくだ山周辺にあり、面積は 150ha。現在は組合員 10 軒が放牧や採草に利用しています。我が家では、野草は牛の飼料や敷料に使い、余りは腐らせて堆肥にしたりと牛糞と混ぜてトルコキキョウの栽培や米づくりに利用していますが、集落では牛を飼う人が減り野草の利用も減りました。使われない草はバイオマスに利用していければと思っています。有畜農家 8 軒で行う防火線切りは人力でしかできない所が多くて大変です。

また、集落全体で行う野焼きは面積が広く負

担が大きいので、もう止めようかという話も出ましたが、1 年止めたら再開は困難なため、ボランティアに加勢してもらいながら何とか続けています。

春先の若芽が伸びる頃、真っ黒な山が青くなっていく姿、秋の干し草の臭いはたまらなくいいものです。毎年山菜が採れるような豊かな環境を守っていくためにも、今回の野草地環境保全計画づくりが牧野の利用や維持管理を続けるために役立つことを期待しています。